

《西日本中学硬式野球連盟 リーグ戦規定》

【運営及び競技に関する規定】

- ①本戦の参加資格は当該年度に登録した選手 10 名以上の単独チームとする。
但し、【申し合わせ事項】の中で参加資格を認めた場合は、その限りではない。
- ②本戦は公認野球規則を適用し、レインボーリーグの申し合わせ事項に従って執り行うものとする。
- ③本戦は試合会場に本部を設置し、円滑な試合進行並びにトラブル防止に努めるものとする。
 - 会場本部は連盟役員の他、各チームの役員、記録・放送担当者で構成し、試合中の選手の負傷、又は疾病に対して応急措置を施すこと。
 - 本戦は連盟認定の公式審判員が主審を務め、塁審は審判講習を受講した者で、試合毎に対戦チームの 1 塁側より 1 名、3 塁側より 2 名を配するものとする。
- ④本戦は春季リーグ戦と秋季リーグ戦とし順位を決定するものとする
 - リーグ戦の試合数及び、形式については監督会にて決定する

【競技に関する特別規定】及び【申し合わせ事項】

- ①リーグ戦への参加資格を満たせない場合、他球団との連合チームでの参加は理事会・監督会で検討する。
- ②ベンチ入りは登録選手 20 名以内、指導者は監督・コーチ・マネージャーの 5 名以内とする
 - ベンチ入り選手は試合毎に審査を受ければ、入れ替わることが出来る。
 - 試合開始時、選手が 9 名に満たない場合や試合途中、怪我等で 9 名を割った場合は公式記録は不戦敗とする。
 - 試合前シートノックは 7 分間。後攻のチームから行う。ノックを補助する選手は必ず、ヘルメットを着用すること。
- ③選手の背番号は何番でも構わない。但し、監督 60 番、コーチは 50 番台の背番号を付けること。
- ④各チームはヘルメット 7 個以上と捕手防具 2 セットを必ず準備し用具審査を受けること。
- ⑤試合は 7 回 2 時間以内で終了し同点の場合は、2 時間以内であれば、延長戦とする。以降はエキストラ一死満塁から始める。継続打順で決着がつくまで行う。
- ⑥降雨・視界不慮等の天候不良で試合続行が困難な場合は 4 回をもって試合成立とする(先攻が負けてる場合は 4 回表)
- ⑦4 回 10 点差・5 回 7 点差でコールドゲームとする
- ⑧試合中の手袋は白黒とし、リストバンドの着用は認めるが、投手はマウンド上で着用出来ない。
- ⑨指導者が指示・アドバイスを与える目的でタイムを要求できるのは、延長・エキストラを含め 3 回までとし、1 イニングで 2 回目のタイム要求は自動的に投手交代となる
- ⑩1・3 塁のコーチスボックスに監督・コーチが立つことを妨げない。
- ⑪隠し球及び、サイン盗・ラフプレイを禁止する。
- ⑫リング及び、素振り用の鉄棒は禁止する(マスコットバット可)
- ⑬試合中のキャッチボールについては投手のキャッチボールを含め、2 組までとしヘルメット等の危険防止を必ずとること又、次投手の準備投球であれば、捕手は防具を付け、補助員も付けること。

⑭攻撃中、次打者はネクストサークル内では、投手が投球動作に入ったら、素振りを止め必ず、片膝をついて打球から目を離さないこと。

⑮投球数制限を採用する

中学統一ガイドラインに従い、投手は1日80球以内とし、連続する2日間では120球以内とする。試合毎に投球数報告書によって管理する。

⑯申告敬遠あり

⑰熱中症対策について

4回終了時に5分間の給水タイムを入れるが、天候状況によっては本部判断で4回終了時に限らずとも良い。

⑱会場に到着したチームは本部に到着の旨を伝えること。

試合開始予定時刻60分~90分前を到着目安とするが、交通事情等の理由で試合に間に合わない場合は必ず、その旨を本部に連絡を入れること。

⑲監督及び、代表不在の場合はコーチ及び、チーム役員が代行出来る(代行届けの提出)

【審査要項について】

○審査は対戦チームの代表及び、チーム役員2名で行い、選手登録名簿と選手証に基づいて審査する。

○バットは中学生専用硬式に限らない。

○試合で使用する手袋は白か黒とし、バットのグリップの色及び、グローブの色は派手な色は認めない(高校野球に準じる)

○ヘルメット(7個以上)バット(グリップ)グローブ(紐切れ)は、破損していないか確認する。

捕手防具…急所カップ・ヘルメット・レガース・マスク・プロテクターに不備がないかを確認する(2セット)不完全な用具は使用出来ない。

○選手の頭髪等は所属中学校・校則に違反する者は出場出来ない。

○爪の伸び過ぎはカットする

○肩袖に連盟ワッペンを確認する。仮に付けてない場合は指導する。